

しびれについて

脳神経外科
田村クリニック
南大沢メディカルプラザ

いなじ ただよし
稲次 忠介

日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医
日本脳神経血管内治療学会認定専門医



今回は、多くの方が経験されたことがある「しびれ」についてお話していきたいと思えます。

「しびれ」と一口に申ししましても、その感じ方は、人それぞれです。正座の後のジンとすするものや、ぴりぴり／びりびり、じんじん、さわさわ／ぞわぞわなど、表現しにくいものが多くあります。このような感覚は、日本語では異常感覚、錯感覚という表現をします。異常感覚とは、患者様自身が感じる感覚で、錯感覚は、他から触られたりする刺激とは別な感じがする感覚を言います。わかりにくいですが、どうしてわかりにくい日本語があるかと言いますと、外国語／英語のためです。もともとは、英語で二種類の単語があり、それを何とか日本語で表そうとしたらこうなったのです。ですから、混乱を招かないように、現在ではこの言葉の使い分けはあまりされません。

では、「しびれ」の感覚について、少し詳しくみていきたいと思います。多少、専門用語が飛び交うこととなりますが、説明を加えながらお話しします。

感覚には、大きく分けて、表在知覚（皮膚表面の感覚です）、深部知覚（振動を感じたり、手や指の存在する位置がわかる感覚などをいいます）と言ったものがあります。では、表在知覚には、どんなものがあるのでしょうか？

(a) 触覚（そっと触られる感覚）
(b) 温度覚（いわゆる暖かい、冷たい）
(c) 痛覚（まさに皮膚表面の痛み）
ちなみに(a)と(b)(c)は、関係する神経の通り道は違います。ですから、(a)は問題なくても(b)(c)が障害されることもあるわけです。

一方、深部知覚は、筋肉や関節などへの刺激に対する感覚です。

(a) 関節覚／位置覚（関節の曲がりや伸び、その程度を判断する感覚）
(b) 振動覚（細かい振動がわかるかどうか判断する感覚）
(c) 複合感覚（皮膚の2点を同時に触って、この2点がわかる感覚、また、背中や皮膚に書いた文字や数字が判断出来るかという感覚も含まれる）

このような感覚の障害が様々な組み合わせで、「しびれ」という異常な感覚を生み出しているのです。では、どんな場所が障害されるとこのような感覚を生み出すのでしょうか？ それは、神経のある場所すべてで起こります。その場所は、(1) 手足の末梢神経、(2) 脊髄（背骨の中を通っている太い神経です）、(3) 脳幹（脳と脊髄を連結している部分で、とても複雑な症状がでます）、(4) 脳に分けられます。

他の病気でもそうですが、特に「この症状の時に、何の病気」という一対一の対応をしていないのが、この「しびれ」で、診断に困難を極めることが多くあります。糖尿病や甲状腺疾患（ホルモンの病気）、椎間板ヘルニアや脊柱間狭窄症、脳梗塞や脳腫瘍など病気は多岐に渡ります。実際に診察し、患者様の訴えと、神経所見をあわせた上で画像診断（CT／MRI）や血液検査などを行い、その結果を合わせて診断をすることがほとんどです。当院には、CT／MRIが設備されており、いつでもご相談いただけるようにしております。